

令和 4 年 2 月 10 日時点

(1) 事務事業の概要			
① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない		
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 12 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで	ダイオキシンの対策特別処置法では汚染の状況の常時監視が都道府県により義務づけられており、県と連携し旭市内の環境中におけるダイオキシンの測定を行い、環境基準と比較して安全な環境が確保されていることを確認する。測定時期は県の測定計画で定められ、測定箇所も県と協議して決定する。測定結果については広報等で周知するとともに県に報告し、環境基準を達成していない場合は、県と協議を行い共同で原因調査及び対策を実施する。 【測定箇所】大気：県と協議をして測定箇所を決定（5年間継続して測定）、水質：新川干潟大橋、土壌：中央児童公園		
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
廃棄物の焼却施設などから発生するダイオキシン類による健康影響の不安から環境中のダイオキシン類の測定に対する要望が多いことから開始した。	測定開始当初と比べて数値が減少傾向にある。	基準値以内で推移しているため、特に問合せはない。	

従事職員数 常時 1 人 最大 2 人 × 2 日 = 延べ 4 人

① 主な活動		③ 活動指標名	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)
手段	2年度実績(2年度に行った主な活動)							
	ダイオキシン類の測定	ア 大気測定(2箇所)	回	2	2	2	2	2
	大気 年2回 2箇所							
	水質 年1回 1箇所	イ 水質測定(1箇所)、土壌測定(1箇所)	回	1	1	1	1	1
	土壌 年1回 1箇所							

② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)		④ 成果指標名	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	1年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (計画)
目的	対象 生活環境	ア 環境基準達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	意図 環境基準に対する状況が把握できる							
	対象意図	イ						

①成果優先度評価結果		成果向上余地		
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない
施策貢献度	大きい			
	普通			⑦
	小さい			

②コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
		下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
評価結果	①			
	②			
	③			
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧	(7)		
	⑨			

Line graph showing the trend of the ratio of actual results to the target for 'ア' (A) from H29 to R3 planning. The ratio is consistently 100.0%.

Year	Ratio (%)
H29	100.0
H30	100.0
R1	100.0
R2	100.0
R3計画	100.0

① 進捗状況															☐ 完了		☐ 順調		☒ 概ね順調		☐ 停滞		☐ 実施困難										
評価内容	【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)																																
	② 成果の状況															成果指標ア	成果指標イ	成果指標のタイプ	数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	成果動向	比較	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度				
																成果指標イ																	
	【コメント】 (低下の場合、その理由)																																
③ 今年度取組事項 (3年度に取り組む主な事項について記載)															時期	内容														今後の方向性	☐ 拡大 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止	☐ 見直し ☐ その他()
															例年通り	例年通り																	
																															例年通り	例年通り	